

「これは何ですか？」  
 「ペンです」  
 「じゃ、ことばを使わずに、これについて考えることはできますか？」  
 「？」  
 「じゃ、これを使う方法とか、いつ使っているとかか、教えて」  
 「丸つけのときとかに使う」  
 「それのことばを使わずに考えられる？」  
 「?!」  
 「そう、人間はことばなしに考えることはできません。考えることはことばと強く結びついています。そんな『国語』、考える方法をこの教室では学んでいます。体験してみますか？」

こんな会話が、体験授業の時にはなされます。もちろん、学年に応じて会話は変わりますが、低学年であればことばそのものの面白さ、高学年、中高生となると考えることの面白さ、正しく理解したり考えたりするしくみについて考えてもらうこととなります。では、そのことばのしくみとはどのようなものでしょうか。

**抽象化と体系的理解**  
 小学生の高学年、中高生と成長していく時、すべての知性の中心となるのは抽象化する力です。直接は関係のないものごとを関連付けて理解し他へ応用していく力や、論理的に具体的な内容と抽象的な内容を体系づけて整理して理解していく力です。

これには、文学的な表現を読み、象徴的なものが意味するものや、話の主題を考える練習が役に立ちます。本文のあらすじを理解した上で、美しく修辞が凝らされた表現に目を向け、意味するものを考えます。たとえば、本文に「海」を指す少年が出てきたら、「海」は深く、道もなく、どこまでも続くすばらしい世界、と解釈し、「少年が海を指す」とは「広い自由な世界に出ていくこと」と気づけるようになります。こうした感覚は、多くの読書体験で磨かれます。残念ながら問題集でこのような感受性を磨くことはできません。

また、論理的な構成について理解するためには、短い小論文を書く練習が効果的です。書く段階で何についてどのような例をあげて説明すればよいのか、身近なことを題としても意外と難しいものです。たとえば、「夏休みは楽しい」ということを論述するためには、具体的に「海遊び」についてと「キャンプ」について書くというようにします。これは

書きことばの基礎 II 短文

幼い頃、小学校低学年までの間に、まずは文法的な論理性を身につけましょう。

お話することばと、書く・読むことばを分けます。そして、書く・読むことば（以降、「書きことば」と称します）を使って筋道の通った正確な文を書けるよう練習します。この学習は特に小学校3年生より前に有効です。主語と述語の揃った短文に書きなれた上で、さらに接続詞や副助詞の使い分けを学んでいきます。おしゃべりするときには、聞き手とある程度の情報共有ができていたのが普通なので、話し手はかなりのことを省略できます。一方、文章の読み手は不特定ですから、書く時は環境を共有していない人同士でも理解できるように、主語・述語・修飾語をその位置も的確に「ちゃんと書く」ということが大切です。そして「ちゃんと書く」とあいまいで漠然としていた内容が「きちんと理解され」ます。早い段階から練習すればそれが基盤となり、思考することも習慣化します。



「(夏休みに)すること」という抽象的なレベルで一致しているので文の構成はとりやすくなります。この思考法に慣れると、読み取りの際にも系統立てて理解できるようになります。

読解のテクニクとは

進学塾や予備校で、『しかし』の後は大事」とか『〜思う』と書いてある文は作者の主張」「最後の文はまとめ」ということを習ったと、よく生徒から聞きます。しかし、考えれば分かると思うのですが、どの文章でもそうであるとは限らず、そのテクニクはいつも使えるわけではありません。細分化されたテクニクは、部分的に効果があってもその時限りで、短期的成果しかあげられません。入試のような範囲が広く何が出るかわからないが絶対に失敗したくないような場合で無自覚に機械的に使うのは危険です。

だから、本質的で普遍的な「考え方」そのものを身に付けることが必要です。そうした「エッセンス(本質)」はPCのOSのように思考活動のベースになります。その「考え方」は一度学んだくらいでは全く役に立ちませんが、反復練習し、一旦慣れてしまえば、さまざまな新しく加わる知識や技術も実践で使いやすくなり、加速度的に成長できるようになります。(松末)

語彙を身につける

記述するには「それ」を何というか、語彙も必要になります。語彙が増えれば、それが思考の材料になるだけでなく、微妙な差異や概念もあわせて理解できるようになります。選択肢を与えられて分かるうちは語彙力があることにはなりません。いろいろなことばを自らすすんで使えるようになります。よく語彙を増やすにはどんな参考書がいいかなど聞かれますが、語彙は文脈に即して習得するものです。たとえば、「うわのそら」ということばは、辞書には「ほかのことが気になって、落ち着かない様子」と書かれています。しかし、そのような意味を暗記しても適した場面では使えなかったり、あるいは「らくがきにうわのそらで授業を聞いていなかった」というような間違った使い方をしてしまいます。「女の子に告白されて、授業中もうわのそらだった」というような文脈で出会えば、別のことをしたせいではなく、無自覚に自分の意識が今、ここから離れてしまう文脈でしか使えないことが分かってきます。また「赤ちゃんでもできる」とか「われこそは一番だ」といった副助詞も感覚的に理解することばです。意味を辞書で調べ覚えるのではなく、何度も本で出会ったり、使っているのを聞いていたりして、その意味するところを繊細に読み取れるようになります。総じて、文やことばを正しく理解するというのは、そうした言語生活を何度も重ねる以外にはつかないのです。

秋のおすすめ図書

秋の夜長に時間をかけてじっくりと読める、「少し難しくても深みのある本」をご紹介します。

【小学校】

- 新見南吉『おじいさんのランプ』『川』
- 椋鳩十『片耳の大シカ』
- 小松左京『青い宇宙の冒険』
- マーク・トゥエイン『トムソーヤの冒険』
- 『ハックルベリー・フィンの冒険』
- 宮沢賢治『ヨダカの星』『銀河鉄道の夜』
- 安岡章太郎『サアカスの馬』
- 竹山道雄『ビルマの竖琴』
- ハンス・ペーター・リヒター『あのころはフリドリヒがいた』
- 夏目漱石『ぼっちゃん』



【中学校】

- ダニエル・キイス『アルジャーノンに花束を』
- フランツ・カフカ『変身』
- ロバート・ルイス・ステイヴンソン『ジキル博士とハイド氏』
- アレクサンドル・デュマ・ペール『モンテクリスト伯』
- フォードル・ドフトエフスキー『罪と罰』
- ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』

- その他、遠藤周作・芥川龍之介・塩野七生・司馬遼太郎・池澤夏樹・村上春樹・筒井康隆 など



# ライブラリ紹介

## 『コンビニ人間』

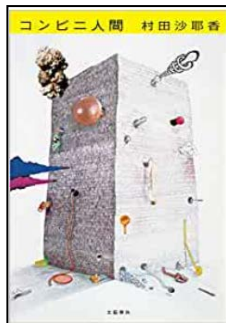
対象学年／中高生以上

本の効用とは何でしょうか。物語の主人公の目を通せば、私たちはいつもとは違う目で世界を見、感じられます。その人物が変わった人であれば、なおのことです。

この本の主人公である古倉恵子は、子供の頃から他の人とは感覚がずれており、家族をはじめ周囲の人から異物扱いされてきました。しかし、大学生の時に始めたコンビニのアルバイトで勤務態度が評価され、初めて自分が他の人と同じような普通の人間になれたことを実感し、大学卒業後もそこで勤務し続けます。「普通」という枠組みは内部の人間にはわかりません。そこから外れた主人公が社会における「普通」を押し付けられ、その枠組みの中に収められようとする姿は私たちにとって新鮮なものです。ところが、最後に自分の生き甲斐とは何なのかに気づいた主人公は衝撃の選択をします。それは、読んでのお楽しみです。

この本は、全く予想もつかない結末の面白さと、自分とは異なる価値観に触れるという新しい機会を与えてくれます。秋の読書にいかがでしょうか。

(成田)



村田沙耶香 著  
文春文庫  
1430円(税込)

# コクゴのチカラ vol.40

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町3-11 夙川ビル2F TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686  
info@glt-shouou.com http://www.glt-shouou.com/ 2021年10月4日発行(第40号)

# イベントのお知らせ

## 親だって松桜塾！ ～大人向け授業体験～

「親だって松桜塾」は保護者様自身が松桜塾の授業を体験できるワークショップです。詳しくは別紙をご覧ください。

### ◆国語力を伸ばす！基礎の鍛え方

小学校低学年の教材を扱います。国語力の基礎部分を伸ばす学習が体験できます。

日時… 11月14日(日)または15日(月)  
10時30分～12時00分  
※両日、同じ内容です

対象… 保護者

※塾生以外の保護者の方も歓迎です

受講料… 2,200円(税込)

### ◆これでわかる！ 説明文・評論文の読み方

小学校高学年からの教材を扱います。説明文の基本的な読み方が学べます。

日時… 11月14日(日)  
13時30分～15時00分

対象… 保護者

※塾生以外の保護者の方も歓迎です

受講料… 2,200円(税込)

各講座定員8名、場所は松桜塾2階です。

お申込みはホームページで受付しています。

# レギュラー生へのご案内

## 月謝引き落とし

11月度 10月27日(水)  
12月度 11月29日(月)

## 祝日による休塾日

11月23日(火) 勤労感謝の日

\*火曜の通塾生は右記授業を振り替えてください。

## 授業回数調整による休塾日

11月1日(月)～6日(土)

\*この期間の授業は振替不要です。

## 新型コロナウイルス感染対策

松桜塾では、継続して感染防止対策を行っております。また、教室内の人数も調整して授業を行っています。そのため、座席数には限りがございます。予めご了承ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。ご意見・ご感想などございましたら、ご連絡なくメール・FAXにてお聞かせください。今後の教室の運営、ニュースレターの作成に反映させ、ますますの充実を図って参ります。また、本紙の配信がご不要の場合、その旨ご一報くださいますようお願いいたします。

## 読書の楽しみ

読書の秋ですね。秋から冬は夜が長くなり、外での活動を徐々に減らし、内省する内なる活動を増やす時期です。何事もそうですが、季節に応じた活動というものがああります。冬に準備をし、春に植え、夏に繁らせ、実りの秋を楽しむ。中国の古い考え方では、春夏秋冬といった自然の変化に抗わずに連動し、自分を活かすのを君子とします。人も内面を肥やす活動がなければ、立派な花・実はずけられませんか。好きな本・必要な本だけを読むのではなく、自分の滋養になりそうな少し難しそうな本や深みのある本を読むのは、こうした秋から冬に向かう時期にとっても必要なことなのです。

大人ならまだ読んでいない古典的名著、挫折した難解な本、子どもならやはり児童文学の名著やティーン向けにリライトされた評論や思想書などがお勧めです。自分を鍛えるのは1割増しの難しさと言いますが、時間をかけて読むのならば背伸びしたものに手を出してもいいかもしれません。最近「名著のツボ」(石井千湖著 文芸春秋社)というブックガイドが出版されましたが、なかなか面白く、内田百閒やブルーストを読んでみたくなりま

した。子供用とはいえ竹村亞希子著の「易经」も中国古典を現代風の物語の中で解釈されていて、思想的にもさすがの内容です。森鴉外の「山椒大夫」も時代背景や読みづら言葉もあるでしょうが、読み進めれば理不尽さに向き合ったひたむきな姉弟の運命に涙するでしょう。読み手に前提となる知識や教養が不足すると、内容がよく読み取れなくなったり間違えて解釈してしまったりがちですが、辞書をひきつつ、ゆっくりと反芻するように読み進めれば、今までにない手ごたえを感じるはずです。読み終わった後は、じっくりそれについて考えるのもいいし、誰かに話してみてもいいかもしれません。そうすることで本当に自分の精神の肥やしとなるはず

一面	読書の楽しみ
二面	国語は勉強《考えること》を支えるシステムである
三面	秋のおすすめ図書
四一面	ライブラリ紹介
四二面	イベントのお知らせ
四三面	レギュラー生へのご案内



ということばもあります。知性とはある情報から深い意味を見つけ出すことです。それは共感性で現れることもあるし、世界の本質に迫るものであることもあります。だから、人は本を読むと感動します。一見無関係な情報と情報の間に関連性を見つけ出し、深いメッセージを受け取ること、そのような思考から新しい発想や創造を作り出すことが可能です。「意味」を見つけ出せる人間になるためにも、大人も子供も読書で経験値や教養、情緒や感受性を養いましょう。(松末)